

1. 調査報告概要表

作成日 2009年9月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1070800220
法人名	タクミ工業株式会社
事業所名	グループホーム ベルジ渋川たやの家
所在地	群馬県渋川市半田宮西 3075 (電話) 0279-25-3376

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年8月26日

【情報提供票より】(21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 12 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 17 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	15.8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての 階 ~ 1・2・3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	21,060 円	
敷 金	有() 円 <input type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(300000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1300 円	

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性	9 名	女性	18 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	9 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低	68 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上武呼吸器科内科病院	こすもすクリニック	船岡歯科医院
---------	------------	-----------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

どの居室からも眺めがよく、自然の移り変わりを感じ取ることができるホームである。近くの神社や畑に散歩に出かけ、日常的に地域の住民との関わりを大切にしている。安心安全なケアを提供するために、家族連絡帳・ヒヤリハット報告書・苦情共有カードなどで利用者や家族の生の声を尊重し、実践に移せるようレベルアップをしていきたいと努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価については職員全体で話し合った。時間をかけながら改善していく方向で取り組んでいる。食事に関しては、外食や行事食の際には職員も利用者と一緒に食事を楽しむようにした。各ユニットの出入り口の鍵も職員体制や利用者の状況に応じて開放できる時間を持つ意識作りをしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の取り組みと比較しながら各ユニットで検討した。管理者は業務のマンネリ化や入居者の目線に立った意識を持つためにも自己評価は大切なことと捉えている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に行われている運営推進会議では、参加者による情報交換やホームからの協力依頼等を中心に行っている。ホームの行事に合わせた日程を設定し、多くの家族や地域関係者の行事等への理解協力を期待したいが、参加者の都合がつかず実現できていないため、今後も調整やお願いをしていきたいと考えている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には個別に毎月写真を添えたお便りを発行している。また面会時や電話などで寄せられた意見は、連絡帳や苦情共有カードなどに記入し、職員全体が把握して統一した対応をするようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事である夏祭りや公民館で開かれている「ふれあいサロン」に参加したり、道路愛護事業に協力している。日常的には散歩などで地域の住民との交流はあるが、今後は運営推進会議の参加者にも協力してもらい、ホームの行事にも気軽に地域の住民が足を運んでもらえるようにしていきたいと考えている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が安全に楽しく生活することを中心に、地域に貢献し住民が気軽に立ち寄れるホームをめざした独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が理念を意識できるよう毎朝復唱している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや公民館で開かれる「ふれあいサロン」や道路愛護事業に参加している。また、運営推進会議の参加者に協力してもらいながら、ホームの行事にも地域住民の来所を働きかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を職員会議で検討している。業務のマンネリ化や固定観念にとらわれず、入居者の目線に立ったケアを提供できるよう、管理者も職員に働きかけている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度開催している。情報交換や災害時等の協力依頼や地域行事の予定確認を行っている。ホームの行事に合わせた開催も考えているが、地域関係者の日程を優先しているため難しい現状である。また、家族の参加が一家族に限られているため多くの参加をお願いしたいと思っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは情報交換や資料提供も受けられる関係ができています。今後はホームの行事への参加をお願いしていきたいと考えています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族には写真入りの個別のお便りを毎月発送している。さらに、面会時や電話での報告も行っている。	○	個別の報告に加え、安心安全なケアを提供している実情を伝える意味からも、ホーム側からの家族への共通の情報や寄せられた意見に対する取り組み状況や方針などをお知らせする工夫も検討してみてもどうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から出された意見は連絡帳や苦情共有カードに記入し、職員全体で統一した対応をするようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を配慮しながら職員の異動を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育は重要と捉え、ホーム内外の研修に積極的に参加させるようにしている。ホーム内でも職員アンケートを実施し、ユニットごとに事例発表を行うなど今後も研修の内容を充実させたいと考えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、研修に参加したり情報交換を行っている。今後は他のホームとの交流も行いながら、学んでいきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたって事前の見学を受け入れている。ホーム側からも家族や関係書から利用前の生活の様子を伝えてもらい情報収集に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者にとってホームは生活そのものであり、職員も生活の一部であると思ってもらえるよう心がけている。昔の知恵を伝えてもらい、一緒に生活を楽しめる関係を築けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や表情から、どのような希望があるかをくみ取り、実現できるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員や家族の意見を聞きながら個々の状況に応じた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3カ月ごとの定期的見直しの他、状態が変化したときはその都度行っている。モニタリングは見直しと同時に実施している。	○	ユニットごとに行っているケアチェックとは別に、状況に変化はなくても1か月に1度はモニタリングも取り入れていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の援助や個別の買い物、外出などの要求に応じた支援もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人のかかりつけ医の受診が受けられるように支援している。また、協力医療機関の医師が週に1回往診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けたホームとしての指針を定め、状況に応じて家族と相談している。また職員間の意見も統一するように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシーや尊厳を大切にした声掛け等に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしは、ホームの流れはあるが、その人なりのペースを大切にケアを提供するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは利用者にも職員と一緒にしてもらっている。日々の食事の際は職員と一緒に摂っていないが、外食や行事食は一緒に味わっている。ホームとしては家族やボランティアとも食事を楽しむ機会を持ちたいと考えている。	○	日常的に職員も利用者と一緒に食事をする中で、味や季節の食材の会話を楽しみながら、ホームの目指す利用者の目線に立った食事の提供のヒントも得られることがあると思われる。他のホームの実践なども参考に検討していただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきには入浴してもらえるように支援している。希望にそった時間帯での入浴支援もしていきたいと考えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、畑の作業や洗濯たたみなどできることを楽しみながら、それぞれの役割をこなしてもらえるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩を取り入れている。その他、外出や外食など外で楽しむ機会を持つようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の状況や職員の体制も考慮しながら、以前よりは玄関や各ユニットの鍵を開けておくよう管理者が中心になって働きかけている。	○	鍵をかけないケアの意義も以前に比べ職員の間で深まってきたとのこと。安全な見守り方法等を検討しながら、引き続き取り組んでいただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年に2回消火訓練・避難訓練を行っている。今後は運営推進会議にも働きかけ、地域の協力体制を作っていきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況は健康面でのチェックと一緒に表で管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットとも個性を生かし、季節感を採り入れながらレイアウトを工夫している。趣味の道具がいつでも使えるよう準備されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には自由に家具や趣味の道具を持ち込んでもらい、居心地良く過ごしてもらえるようにしている。		